

## 添付資料

### 温室効果ガス排出量の削減効果及び資源循環の効果算出シート

事業名：廃スチレンパネルのマテリアルリサイクル

#### ■該当する類型

類型	1
----	---

#### ■基準シナリオの種別

廃スチレンパネルの全国平均の処理
------------------

令和8年4月X日

## ■目次

1	シナリオの概要と機能単位
2	算出範囲
3	インベントリデータ一覧
4-1	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）
4-2	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）
5-1	算出結果_資源循環の効果（類型①）※
5-2	算出結果_資源循環の効果（類型②）※
5-3	算出結果_資源循環の効果（類型③）※
6	改訂履歴

※該当する類型の様式のみ作成すること

1.シナリオの概要と機能単位

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

事業名：廃スチレンパネルのマテリアルリサイクル

■該当する類型

類型	1
----	---

■基準シナリオの種別

廃スチレンパネルの全国平均の処理
------------------

■シナリオの概要と機能単位

記入項目		記入欄	
シナリオの概要	事業シナリオ	廃棄物の種類 廃スチレンパネル（産業廃棄物）  再資源化等の方法 廃スチレンパネルをプラスチックと紙の部分に分離するため、切断を行う。プラスチックは粉碎・熔融し、ペレット化して再生ポリスチレン樹脂とする。紙は熱回収のため焼却処理する。  再生材（複数ある場合は処理割合） 廃棄物の処理量1tあたり再生ポリスチレン樹脂0.50t	
	基準シナリオ	廃棄物の処理方法及び処理割合等 パネルメーカー複数社のヒアリングより廃スチレンパネルは、スチレンと紙から構成されており、接着剤や印刷用インキが使用された複合材のため、分離して再資源化することが困難で一般的には全量焼却処理（熱回収）されていることを確認した。その処理方法を基準シナリオと設定した。	
機能単位	対象とする廃棄物	種類と量	廃スチレンパネル
		排出源	XX地方のコンビニエンスストア：XX% XX地方のショッピングモール：XX%
	生産される再生部品又は再生資源	再生ポリスチレン樹脂	
温室効果ガス排出量の削減効果の算出方法に負荷回避法を用いる場合に○と入力する			○

## 2.算出範囲

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

### 事業名：廃スチレンパネルの材料リサイクル(類型1)

#### ■各シナリオのプロセス

事業A：事業シナリオの再資源化プロセス

事業B：基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス

基準A：基準シナリオの処理プロセス

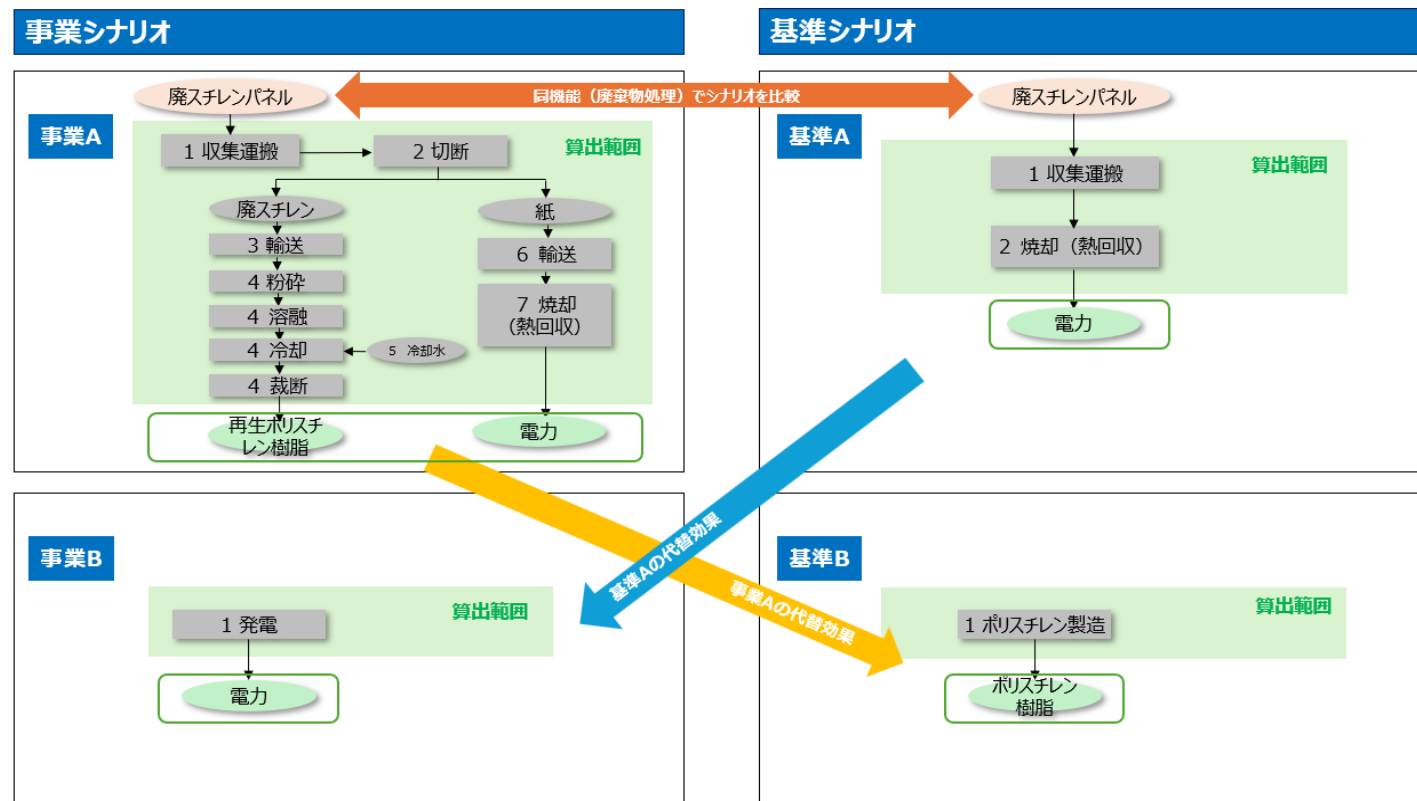
基準B：事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス

#### ■算出範囲

類型①：A⇒収集運搬から残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで

類型②：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで

類型③：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスのうち事業シナリオで設備更新等を実施するプロセスによって影響を受けるプロセス B⇒プライマリー材由来の製品製造プロセスまで



(凡例) □：プロセス ○：製品・サービス 緑色の範囲：算出範囲

#### 【入力上の注意】

- ・算出範囲のプロセスは採番をした上で、図中のプロセス凡例に番号とプロセス名を併記すること。
- ・算出範囲のプロセスは緑色の四角で囲い、算出範囲を明示すること。
- ・算出範囲のプロセスが多いなどの理由で、作図に必要なスペースが不足する場合は算出範囲について別ファイルで提出することを認める。
- ・両シナリオの廃棄物と、プロセスが生み出す製品・サービスより等量・等質（機能が等価という意味）であるものをそれぞれ両矢印で示すこと。
- ・「算出範囲」が本シートに収まりきらない場合は、別ファイルで提出してもよい。その場合は以下のとおりで提出すること。
- ・Word、Excel、PowerPoint、PDFのいずれかのファイルによること。
- ・A4サイズで印刷されることを念頭に置き、10pt以上のフォントを用いて作成すること。
- ・ファイル名は「【算出範囲】申請者名\_事業名\_拡張子」とすること。
- ・類型②の場合、収集運搬のプロセスがシナリオ間で異なる場合、算出範囲に含め、同一の場合は算出範囲から省略することができる。

3.インベントリデータ一覧

改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

事業名：廃スチレンパネルのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果に関するインベントリデータ

①事業シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
事業A	1	a	収集運搬	活動量	131.000	tkm	1t×131km	-	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1	b	収集運搬	排出係数	0.173	kgCO2e/tkm	$((0.060+0.072) \div 2) (L/tkm) \times 2.62kgCO2/L$	・2tトラックの積載率を、事業者ヒアリングより、7000kg÷39回=1795kg/回から、積載率約90%と算出。出典には関数式による算定がより正確とされているが、参考表では積載率90%の値が示されていないため、2025年度基準の軽油・最大積載量2,000kg以上4,000kg未満における積載率80% (0.072 L/t・km) と100% (0.060 L/t・km) の中間値を算出 ・出典より、経由の製造・燃焼にかかる排出係数 (2.62 kgCO2/L) を取得し、上記燃費にこれを乗じることで、収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1,2
	2	a	切断	活動量	158.214	kWh	22.15kWh×500h÷70t	70トンあたりの消費電力22.15kWh（想定）、稼働時間500h（想定）により算出	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	b	切断	排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」p16	3
	3	a	輸送（廃スチレン）	活動量	92.500	tkm	0.5t×185km	-	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	3	b	輸送（廃スチレン）	排出係数	0.139	kgCO2e/tkm	0.053L/tkm×2.62kgCO2/L=	・4tトラックの積載率を、事業者ヒアリングより、35000kg÷11回=3182kg/回から積載率約80%と算出 ・出典より、「4t車・積載率80%・2025年度基準」の燃費 (0.053 L/t・km) と軽油の製造・燃焼にかかる排出係数 (2.620kgCO2e/L) を得て、これを乗じることで収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1,2
	4	a	粉碎・溶融・冷却・裁断	活動量	73.500	kwh	-	事業者ヒアリングより、粉碎・溶融・冷却・裁断の一連の工程の消費電力を取得	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	4	b	粉碎・溶融・冷却・裁断	排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」p16	3
	5	a	粉碎・溶融・冷却・裁断（冷却水）	活動量	0.775	m <sup>3</sup>	0.5t×1.55m <sup>3</sup> /t=0.775m <sup>3</sup>	出典より、容リプラのベール1kgをペレット化する場合の用水量0.00155m <sup>3</sup> を取得し、これを引用	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・海洋プラスチック問題対応協議会「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価（LCA）」p42	1,4

【入力上の注意】

- ・「活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式」には、活動量に影響する収率、機器の処理能力等の条件があり、それらを掛け合わせて活動量等を算出した場合に、計算に用いた元の数値と計算式を入力する。
- ・「出典における数値の定義・考え方」には、出典におけるデータの範囲（排出係数の例：鉄鋼製品の製造/ データの範囲：鉄鉱石の採掘、輸送、製鉄、製鋼、鋳造、圧延など）、設定条件（例：データ整備をおこなった地域、対象の技術、データのばらつき等データ採用にあたり留意すべき事項、など）等を明記すること。
- ・活動量を申請者自身の測定値より算出に用いる場合はガイドライン4.1.4を参照し、データの品質についても留意すること。（具体的には、データを測定した期間、データのばらつき・統計的な確からしさに関して記述すること）  
（実測値を算出に用いる例：あるプロセスについて、廃棄物1t当たりの電力消費量を計算する場合/ 〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月（12か月間）の〇〇プロセスの消費電力量の合計値を配電盤で計測した（XXXkWh）。同期間の当該プロセスの廃棄物処理量（YYYt）で消費電力量を割り算することで廃棄物1t当たりの電力消費量を算出した。  
XXX kWh / YYY t = ZZZ kWh  
なお、〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月の月ごとの廃棄物1t当たりの電力消費量は平均値±5%の範囲内に収まることを確認済み）
- ・「出典における数値の定義・考え方」にて、他のインベントリデータを参照する場合は、下記のルールにて参照番号を付記して記載のこと。  
記載例：②基準A-3a  
= ②基準シナリオ カテゴリ：基準A、プロセス・参照番号：3a を示す。
- ・「No./プロセス」には、「2.算出範囲」シートにて、フロー記載のプロセス凡例と同じプロセス名、番号を用いること。
- ・「プロセス」には、「2.算出範囲」シートのフローに記載のプロセス凡例の名称と同じものを記載のこと。
- ・「出典」に記載の引用箇所のページ番号、数値について、算出シートには出典資料として添付すること。  
出典資料は、引用箇所が分かるようマークを付けたうえで該当ページを提出のこと。

	5 b	粉碎・溶融・冷却・裁断 (冷却水)	排出係数	0.142	kgCO <sub>2</sub> e/m <sup>3</sup>	0.000220kgCO <sub>2</sub> ÷ 0.00155m <sup>3</sup> =0.142kgCO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	出典より、用水量0.00155m <sup>3</sup> あたりのCO <sub>2</sub> 排出量0.000220kgCO <sub>2</sub> を取得し、1m <sup>3</sup> あたりの排出量を算出	海洋プラスチック問題対応協議会「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価 (LCA)」 p42	4
	8 a	輸送 (紙)	活動量	0.500	t	-	-	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	8 b	輸送 (紙)	排出係数	47.200	kgCO <sub>2</sub> e/t	0.0472tCO <sub>2</sub> /t×1,000 (kg/t)	出典より、焼却処理されるものの輸送の排出係数 (0.0472tCO <sub>2</sub> /t) を取得	環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.5)」 8 廃棄物、焼却処理されるもの (輸送除く)、紙くず (CO <sub>2</sub> )	5
	9 a	焼却 (紙)	活動量	0.500	t	-	-	事業実績 (事業者ヒアリングより)	1
	9 b	焼却 (紙)	排出係数	144.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	0.1440tCO <sub>2</sub> /t×1,000 (kg/t)	出典より、紙くずの焼却の排出係数 (CO <sub>2</sub> ) (0.1440tCO <sub>2</sub> /t) を取得	環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.5)」 8 廃棄物、焼却処理されるもの (輸送除く)、紙くず (CO <sub>2</sub> )	5
事業B	1 a	発電	活動量	565.023	kwh	0.5 (t) × 28730 (MJ/t) × 14.16% ÷ 3.6 (MJ/kWh)	<p>基準シナリオと事業シナリオで得られる発電量の差分 (紙は両シナリオで熱回収されるため、廃スチレン0.5t分) を算出。</p> <p>なお、出典より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃プラスチックの標準発熱量 28.73MJ/kg</li> <li>・産業電力回収の係数より1kWh = 3.60MJ</li> <li>・ごみ焼却施設の発電効率の平均値 14.16%</li> <li>・1kWh = 3.6 MJ</li> </ul> <p>として算出 (基準シナリオ)</p> <p>廃プラスチック及び紙くずの発生量はそれぞれ0.5t (合計1t) (事業シナリオ)</p> <p>紙くず (産廃) の発生量は0.5t</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量・炭素排出係数 (2023年度改訂)」 「固有単位表」</li> <li>・環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果 (令和5年度) について」 p9</li> </ul>	7, 8
	1 b	発電	排出係数	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	-	出典より、電気事業者の排出係数の平均値を取得	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和8年度提出用」 p16	3

②基準シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
基準A	1	a	収集運搬	活動量	131.000	tkm	=1t×131km	-	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1	b	収集運搬	排出係数	0.173	kgCO2e/tkm	$((0.060+0.072) \div 2) (L/tkm) \times 2.62kgCO2/L$	・2tトラックの積載率を、事業者ヒアリングより、70000kg÷39回=1795kg/回から、積載率約90%と算出。出典には関数式による算定がより正確とされているが、参考表では積載率90%の値が示されていないため、2025年度基準の軽油・最大積載量2,000kg以上4,000kg未満における積載率80% (0.072 L/t・km) と100% (0.060 L/t・km) の中間値を算出 ・出典より、経由の製造・燃焼にかかる排出係数 (2.62 kgCO2/L) を取得し、上記燃費にこれを乗じることで、収集運搬の排出係数を求めた	・事業実績（事業者ヒアリングより） ・経済産業省、国土交通省（2023）ロジスティクス分野におけるCO2排出量算定方法共同ガイドラインVer.3.2 p59, 27	1,2
	2	a	熱回収（廃スチレン）	活動量	0.500	t	-	廃棄物としては一体であるが、廃スチレンと紙では排出係数が異なるため、廃ポリスチレンの割合を事業シナリオと同量（50%）と想定	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	b	熱回収（廃スチレン）	排出係数	2,760.000	kgCO2e/t	=2.760tCO2/t×1,000 (kg/t)	廃プラスチックの焼却の排出原単位 (CO2) (2.760tCO2/t)	環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.5)」8 廃棄物、焼却処理されるもの（輸送除く）、紙くず (CO2)	5
	2	c	熱回収（紙）	活動量	0.500	t	-	廃棄物としては一体であるが、廃スチレンと紙では排出原単位が異なるため、紙の割合を事業シナリオと同量（50%）と想定	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	2	d	熱回収（紙）	排出係数	144.000	kgCO2e/t	=0.1440tCO2/t×1,000 (kg/t)	紙くずの焼却の排出原単位 (CO2) (0.1440tCO2/t)	環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.5)」8 廃棄物、焼却処理されるもの（輸送除く）、紙くず (CO2)	5
基準B	1	a	ポリスチレン樹脂製造	活動量	0.500	t	-	事業シナリオにおける生成量	事業実績（事業者ヒアリングより）	1
	1	b	ポリスチレン樹脂製造	排出係数	2,958.000	kgCO2e/t	-	非発泡品（PSP）樹脂製造の排出原単位	プラスチック循環利用協会「LCAを考える「ライフサイクルアセスメント」考え方と分析事例」p27	6

(2) 資源循環の効果に関するインベントリデータ

③事業シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
事業A	1	再生ポリスチレン樹脂	0.500	t	-	リサイクルによる産出物	事業実績（事業者ヒアリングより）	1

④基準シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
基準A		該当なし						

4-1.算出結果\_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）

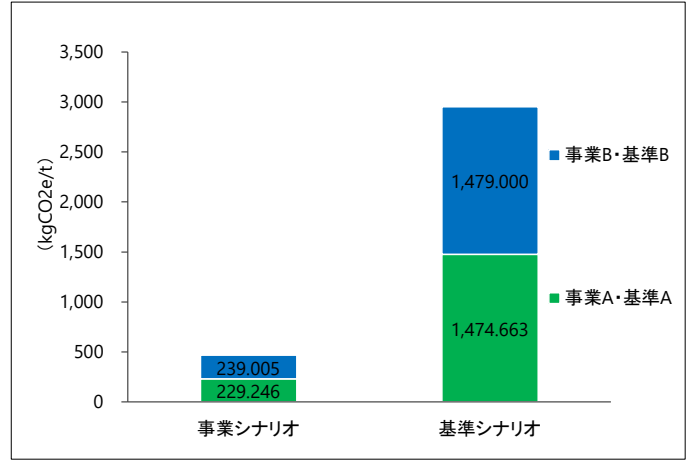
改訂番号 1 入力日 令和8年4月X日

事業名：廃スチレンパネルのマテリアルリサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

① 廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
事業A	事業シナリオの再資源化プロセス	229.246
事業B	基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス	239.005
基準A	基準シナリオの処理プロセス	1,474.663
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス	1,479.000
温室効果ガスの排出削減量 (基準A+基準B) - (事業A+事業B)		2,485.413



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。  
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

① 事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	収集運搬	131.000	tkm	b	収集運搬	0.173	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	22.663
	2	切断	a	切断	158.214	kwh	b	切断	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	66.925
	3	輸送 (廃スチレン)	a	輸送 (廃スチレン)	92.500	tkm	b	輸送 (廃スチレン)	0.139	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	12.858
	4	粉碎・溶融・冷却・裁断	a	粉碎・溶融・冷却・裁断	73.500	kwh	b	粉碎・溶融・冷却・裁断	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	31.091
	5	冷却水	a	冷却水	0.775	m <sup>3</sup>	b	冷却水	0.142	kgCO <sub>2</sub> e/m <sup>3</sup>	0.110
	6	輸送 (紙)	a	輸送 (紙)	0.500	t	b	輸送 (紙)	47.200	kgCO <sub>2</sub> e/t	23.600
	7	焼却 (紙)	a	焼却 (紙)	0.500	t	b	焼却 (紙)	144.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	72.000
合計											229.246

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	発電	a	発電	565.023	kwh	b	発電	0.423	kgCO <sub>2</sub> e/kWh	239.005
合計											239.005

② 基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	収集運搬	131.000	tkm	b	収集運搬	0.173	kgCO <sub>2</sub> e/tkm	22.663
	2	熱回収 (廃スチレン)	a	熱回収 (廃スチレン)	0.500	t	b	熱回収 (廃スチレン)	2,760.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	1,380.000
	2	熱回収 (紙)	e	熱回収 (紙)	0.500	t	f	熱回収 (紙)	144.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	72.000
合計											1,474.663

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO <sub>2</sub> e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	ポリスチレン樹脂製造	a	ポリスチレン樹脂製造	0.500	t	b	ポリスチレン樹脂製造	2,958.000	kgCO <sub>2</sub> e/t	1,479.000
合計											1,479.000

4-2.算出結果\_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）

改訂番号 1

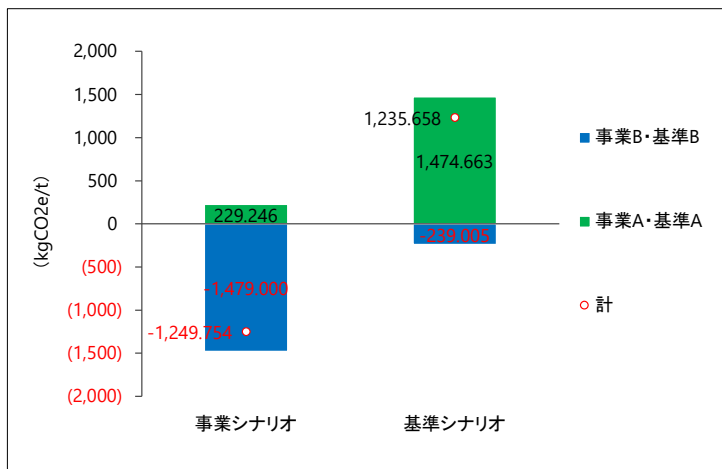
入力日 令和8年4月X日

事業名：廃スチレンパネルの材料リサイクル(類型1)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果

① 廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kgCO2e/t)
事業A	事業の取組実施による温室効果ガス排出量	229.246
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品の製造における、プライマリー材製造工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-1,479.000
事業シナリオ		-1,249.754
基準A	廃棄物の適正処理、再資源化又は熱回収の工程での温室効果ガス排出量	1,474.663
事業B	基準シナリオで再資源化や熱回収が行われていたと設定した場合に、従来の処理が行われなくなってしまうことを補うために必要な工程での温室効果ガス排出量（負の排出量として計上）	-239.005
基準シナリオ		1,235.658
温室効果ガス排出量の削減効果 (基準A+事業B) - (事業A+基準B)		2,485.413



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法を記載すること。  
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

① 事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業A	1	収集運搬	a	収集運搬	131.000	tkm	b	収集運搬	0.173	kgCO2e/tkm	22.663
	2	切断	a	切断	158.214	kwh	b	切断	0.423	kgCO2e/kWh	66.925
	3	輸送 (廃スチレン)	a	輸送 (廃スチレン)	92.500	tkm	b	輸送 (廃スチレン)	0.139	kgCO2e/tkm	12.858
	4	粉砕・溶融・冷却・裁断	a	粉砕・溶融・冷却・裁断	73.500	kwh	b	粉砕・溶融・冷却・裁断	0.423	kgCO2e/kWh	31.091
	5	冷却水	a	冷却水	0.775	m <sup>3</sup>	b	冷却水	0.142	kgCO2e/m <sup>3</sup>	0.110
	6	輸送 (紙)	a	輸送 (紙)	0.500	t	b	輸送 (紙)	47.200	kgCO2e/t	23.600
	7	焼却 (紙)	a	焼却 (紙)	0.500	t	b	焼却 (紙)	144.000	kgCO2e/t	72.000
合計											229.246

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準B	1	ポリスチレン樹脂製造	a	ポリスチレン樹脂製造	0.500	t	b	ポリスチレン樹脂製造	2,958.000	kgCO2e/t	1,479.000
合計											1,479.000

② 基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
基準A	1	収集運搬	a	収集運搬	131.000	tkm	b	収集運搬	0.173	kgCO2e/tkm	22.663
	2	熱回収 (廃スチレン)	a	熱回収 (廃スチレン)	0.500	t	b	熱回収 (廃スチレン)	2,760.000	kgCO2e/t	1,380.000
	2	熱回収 (紙)	e	熱回収 (紙)	0.500	t	f	熱回収 (紙)	144.000	kgCO2e/t	72.000
合計											1,474.663

カテゴリ	No.	プロセス	活動量				排出係数				排出量 (kgCO2e/t)
			参照No.	項目名	数値	単位	参照No.	排出係数名	数値	単位	
事業B	1	発電	a	発電	565.023	kwh	b	発電	0.423	kgCO2e/kWh	239.005
合計											239.005

## 5-1.算出結果\_資源循環の効果 (類型①)

改訂番号

1

入力日

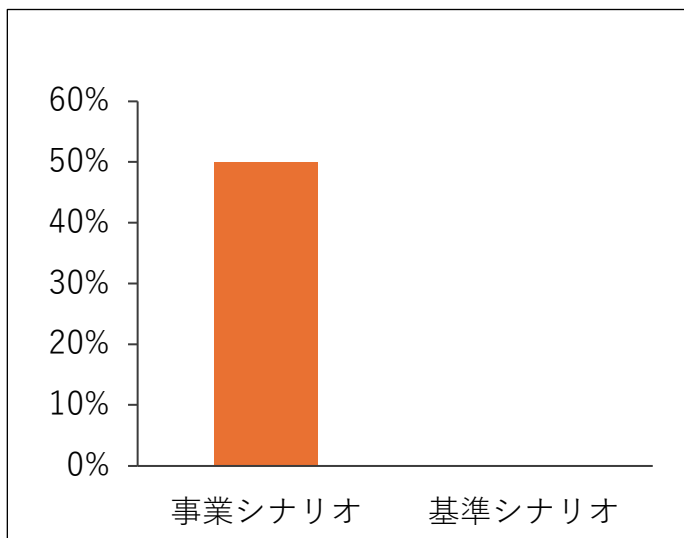
令和8年4月X日

### 事業名：廃スチレンパネルの MATERIAL リサイクル(類型1)

#### (1) 資源循環の効果

##### ①廃棄物1t当たりの資源循環の効果

項目	事業シナリオ	基準シナリオ
廃棄物の処理量 (t)	1.000	1.000
再生材供給量 (t)	0.500	0.000
再生材供給量/ 廃棄物の処理量 (%)	50%	0%
資源循環の効果 = 事業シナリオ - 基準シナリオ		50pt



#### (2) 算出結果の詳細

活動量等については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。

##### ①事業シナリオ

No.	再生材供給量 (t)		
	項目名	数値	単位
1	再生ポリスチレン樹脂	0.500	t
合計		0.500	t

##### ②基準シナリオ

No.	再生材供給量 (t)		
	項目名	数値	単位
	該当なし		t
合計		0.000	t